

ラビットアイブルーベリーの有望品種

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

県内に普及しているブルーベリーの品種群の多くは、北部ハイブッシュ系である。北部ハイブッシュ系は耐寒性が強く、果実品質も良いが、土壌適応性が低いことに加えて、多くの品種が盛夏期前に収穫のピークを過ぎてしまい、つみとり園には適していない。一方、ラビットアイ系は耐寒性や品質が劣ることなどから導入が進まなかったが、近年、盛夏にあたる8月を中心に収穫でき、品質が向上した品種が増え、これらの品種の導入による需要の拡大が期待できる。また、ラビットアイ系は土壌適応性も広く、栽培しやすいことから、いくつかの有望品種を選定したので普及情報とする。

2 普及情報

- 1) パウダーブルー；果皮は明るいブルーでブルームが多い。果肉は硬く、裂果は少なく日持ちが良い多収性品種である。暗青色になるまで収穫を待つと良食味となり、市場出荷、観光園両方に適する。樹の性質は、樹勢は強く直立性である。開花期間は5月上旬～6月上旬、収穫期間は8月上旬から9月中旬で、1樹当たり収量は3000 g前後、1果重は1.7 g、糖度は12.6 %程度である(表1, 2, 3)。
- 2) ビッグオースチン；種子が少なく食べやすい。結果樹齢に達するのが早い。樹の性質は樹勢は中位で直立性である。開花期間は5月上旬～6月上旬、収穫期間は7月下旬～9月中旬で、1樹当たり収量は2200 g前後、1果重は1.7 g、糖度は11.5 %である(表1, 2, 3)。
- 3) ブライトウエル；果肉がしっかりしていて裂果も少なく収量は安定している。樹の性質は樹勢は中位、直立性である。開花期間は5月上旬～6月上旬、収穫期間は8月上旬～9月中旬で、1樹当たり収量は3100 g前後、1果重は1.6 g、糖度は11.3 %である(表1, 2, 3)。
- 4) バルドウイン；果皮は柔らかく、暗青色でブルームは少なく、食味は良い。樹の性質は樹勢は強く、やや開張性である。開花期間は5月中旬～6月上旬、収穫期間は8月上旬～9月上旬で、1樹当たり収量は多い年で2000 g以上、1果重は2.1 g、糖度は11.0 %である(表1, 2, 3)。

3 利活用の留意点

- 1) 土壌適応性について、適正 pH はハイブッシュよりやや高めの4.5～5.3程度とする。
- 2) 浅根性なので、土壌の過乾湿の防止および防草のため株元には必ず有機物マルチを施す。
- 3) ラビットアイブルーベリーは、北部ハイブッシュ系に比べ耐寒性が劣るので、山間地や冬期に直接、北西風が当たる地域は導入を控える。県中南部地域の平野部での導入が望ましい。

(問合せ先：農業・園芸総合研究所園芸栽培部 電話 022-383-8132)

4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題名及び研究期間 宮城発信型の新規園芸品目の定着技術の確立 平成21年～
- 2) 参考データ

表1 ラビットアイブルーベリー各品種の開花期間(平成21～平成23年)

品種名	開花期間						
	4月下旬	5月上旬	5月中旬	5月下旬	6月上旬	6月中旬	6月下旬
パウダーブルー							
ビックオースチン							
ブライトウエル							
バルドウイン							

表2 ラビットアイブルーベリーの各品種の収穫期間(平成21～平成23年)

品種名	収穫期間						
	7月中旬	7月下旬	8月上旬	8月中旬	8月下旬	9月上旬	9月中旬
パウダーブルー							
ビックオースチン							
ブライトウエル							
バルドウイン							

表3 ラビットアイブルーベリーの収量と果実品質(平成21～平成23年)

品種	年次	樹齢(年)	1樹当たり収量 (g)	1果重 (g)	糖度 (%)
パウダーブルー	平成21年	6	2275	1.9	13.0
	平成22年	7	3516	1.5	12.9
	平成23年	8	4537	1.7	11.8
平均			3443	1.7	12～13
ビックオースチン	平成21年	6	1058	1.8	10.0
	平成22年	7	2324	1.6	13.4
	平成23年	8	3217	1.7	11.0
平均			2200	1.7	10～13
ブライトウエル	平成21年	6	2912	1.7	9.0
	平成22年	7	2303	1.6	13.5
	平成23年	8	4086	1.6	11.5
平均			3100	1.6	9～14
バルドウイン	平成21年	6	869	2.1	10.0
	平成22年	7	462	2.1	12.0
	平成23年	8	2378	2.2	11.0
平均			1236	2.1	10～12

3) 発表論文等

関連する普及に移す技術

- a) 生食用ブルーベリーの有望品種 (第57号普及技術)
- b) ブルーベリーの施設栽培による熟期促進と生産安定 (第67号参考資料)
- c) 生食用ブルーベリーの有望品種 (第67号普及技術 (追補))